

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 099	提案機関名 公益財団法人相模湾水産振興事業団
要望問題 腰越漁協地先の砂泥の堆積による磯根資源への影響調査について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ○ 当事業団は、水産資源の維持拡大、沿岸漁業者の経営安定を図るため腰越漁協地先の磯根資源として、サザエの種苗放流を実施している。 ○ 現在国道134号線の拡幅工事にともない、七里ヶ浜沖水深1～2メートルの磯根に堆積した大量の砂泥が、水産有用種であるアワビ、サザエ、ワカメの漁業に影響を及ぼしている。 ○ また、水深1～2メートルの磯根で採取したサザエの大半に砂の塊が付着し、ゴカイが巣を作り採取したサザエが出荷出来ず、漁業経営は深刻な状況にある。 ○ そこで、磯根に堆積した大量の砂泥が水産有用種であるアワビ、サザエ、ワカメの再生産に及ぼす影響について、調査するとともに磯根に堆積した砂泥の除去方法の調査研究を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	栽培推進部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 水技Cとしましては、担当普及員による他県の事例などの情報収集やサザエ稚貝放流にあたって放流適地の選定などの技術的な指導、相模湾試験場による水中カメラによる現場確認等を行っておりますので、引き続きこれらに取組んで実態把握に努めてまいります。堆積した砂泥を除去する具体的な方法については、その原因や発生機構が明確に解明されていないため、難しいと考えております。なお、この件につきましては、鎌倉市が取りまとめ機関となって腰越漁協、県の藤沢土木事務所および水技C等と連絡会議を開催しておりますので、新しい知見や情報を入手した都度会議の場で報告し、事態の改善に協力してまいります。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			